

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	<b>会 報 第 190 号</b>	2017年5月29日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	--------------------	--

### 1. 活動報告（事務局 記）

—4月26日（水）二俣瀬ふれあいセンターにて、臨時役員会議を行いました。  
会議では、6月17日の活動日について議論をし、“24時間テレビ”の関連作業となりますため、事前に作業準備、作業内容を取り決めておく必要があったからです。なお出席者は、原田会長、田村副会長、管、関根、原田、原谷、前田の7名です。

—5月7日（日）① 作業休憩中に、以下の内容について話し合いをしました。

- ・6月17日の活動日に実施する、24時間テレビ収録への対応
- ・田原会員（山大農学部）が実施する、ヨケジでの調査
- ・福川子供クラブ来訪時（8月11日）の受け入れ体制

② 作業内容

- ・水路周辺の草刈り・溝あげ、草原地帯の草刈り、市道の落葉排除
- ・田圃への堆肥散布

参加者は原田会長、田村副会長以下、会員18名でした。

—5月27日（土）親子自然観察隊は、野鳥観察でした。コースは例年通り、ビオトープ、ふれあいセンター、小学校、厚東川左岸を上り、国道の橋を渡り右岸を下って、木田橋を渡り、左岸を下り、ビオトープへ帰りました。見られた鳥は22種、声が聞かれた鳥は5種で全部で27種でした。参加者は、宇部野鳥保護の会2名を講師とし、観察隊の親12名・子15名、来賓の東ティモールの大学関係者4名、会員13名でした。

午後は、臨時作業として、駐車場の草刈を会員5名で行われました。

### 2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません

◎行 事

—5月31日（水）中電ボランティア活動

—6月11日（日）稲作体験・田植え（親子自然観察隊・二俣瀬子ども会を招聘）

—6月17日（土）維持管理（草刈）

通常の活動日ですが、日テレ系 24時間テレビ「愛は地球を救う」の収録に「里山ビオトープ二俣瀬」で活動状況と環境美化と合わせK R Y山口放送が収録に来られます。

### 3. 来訪者の声

今回はありません。

#### 4. 会員の声—1「ゴールデンウイーク去り」 （原田 満洲夫 記）

今年のゴールデンウイークは4月29日から始まり5月7日まで約9日間の大型連休で有った。

リタイヤ以前は、何も考えず長期休日を謳歌し国内や海外の旅行を楽しんだものである。勤めていた会社には、お客さんに何かトラブルが有っても対応できるよう連絡先を記帳してまで、お呼びがかからない事を念じゴールデンウイークを楽しむことが出来たものである。

さて今はどうか？年金のみの収入で、経費の事が先に浮かぶ。「費用対効果」は過っての勤務していた会社の基本的な※社是であった。年寄りが二人なんの効果もなく費用だけ消費することはとてもじゃないが年金生活者にはドダイ無理というものである、

そこで考えたのが費用をかけず最大の効果を上げるには近くで、ここではビオトープがあるじゃない！という事で連休はビオトープの奉仕作業（草刈り・溝あげ・田植え準備・エコアップ）や道路のゴミ拾い等々、活動日に作業するだけが能でない。以前楽しんだ連休の楽しみと思えば「少ない費用に最大の効果」を発揮でき、会社でいえば優等生そのものである。

3日間老夫婦は続けることが出来それなりに気持ちは満足したものの身体が持てず後の二日は費用が少ししか掛からない近くの温泉で身体の癒しを全うしたわけである。

連休明けには、中途半端な遊びほうけた連中の不法投棄の空き缶・弁当空パックやナイロン袋の収集に老夫婦はゴールデンウイークで培った豊かな心が一変して怒りの心で元の木阿弥になったのである。

※社是（会社の基本的な経営方針等）

#### 会員の声—2 「二俣瀬ビオトープ水田での卒業研究」

（山口大学農学部生物資源環境科学科4年 田原 美桜 記）

【なぜ実験地として二俣瀬のビオトープを選んだのか】

水田周囲の溝（山口県ではヨケジと呼ぶ）生物の住む場所や逃げる場所として役に立っている。その様な生物に優しい溝を広げていくためには、この溝についてもっと調べる必要があると考えた。この水田周囲の溝があり、なおかつ実験をさせてもらえるということで、この二俣瀬のビオトープを選ばせて頂きました。

【実験について】

1. 田植え（6/11）～収穫の間に数日間かけて、ヨケジ（水路周辺の溝）がどの位水温を上げる効果があるのかを、川・水路・ヨケジに水温計を設置して時間ごとに水温を測定します。
2. 収穫直前または直後まで週一回、ヨケジの中の生物を網ですくって調査します。この調査によって、①季節によって種類や数がどのように変わっていくか②ヨケジ周辺の草を定期的に刈る場所と刈らない場所とで生物の種類や数がどう変わるのかを調査します。
3. 田んぼの水を抜いている時期～収穫（7月下旬～10月上旬）に、田んぼの中の3か所で、土壌中の水分量を計測できる機械を設置し、ヨケジの中に水があることで稲作中の土壌にどのような影響を及ぼすのかを調査します。
4. 田んぼの水を抜き始める時期（7月下旬）以降に、①田んぼの土のサンプルをとり、②大学でその土の物理的な特徴を調べ、③②の結果を使ってヨケジの最適な構造を計算し、稲作に悪影響を与えないヨケジの構造を明らかにします。

【最後に】

先日、無事実験を始めることができたのは、水路掘りや生物調査などビオトープの方の協力

のおかげであります。この場をお借りして感謝の気持ちを述べさせていただきます。本当にありがとうございます。今後も実験以外にも活動日は積極的に参加していこうと思いますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## 5. 親子自然観察隊（野鳥観察）（管 哲郎 記）

さわやかな五月晴れのもと、予定通り野鳥の観察会が行われました。講師には寺本氏（きらら浜野鳥観察公園）と北野氏（山大生）の2名がおいでになり、野鳥の資料とコンパクト双眼鏡をほぼ全員に貸し出していただけました。また、山口大学より留学中の4名も来られ、観察隊の親子28名、会員を加え総勢47名での観察会になりました。

観察ルートは東屋を出発し公民館（トイレタイム）経由、二又瀬小学校のそばを抜け2号線二又瀬橋を渡り、土手沿いを下り、木田橋より左岸の土手に入り下り、駐車場を抜けてビオトープへ帰着しました。

本日の成果は去年の21種に比べ、27種（うち、5種は声のみ確認）と多くの鳥を確認できました。双眼鏡が全員に行き渡っているせいか、たいした混乱も無くスムーズに観察会を終えました。なお、二又瀬橋には「イワツバメ」が居付いていたのと、昭和山頂上の電波塔には「ミサゴ」も確認できて新しい発見でした。

観察を済ませた後、本日の調査結果を確認しておきました。昨年より少し多かったようです。《本日の目撃、確認した鳥類》

◎目撃種：カルガモ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ミサゴ、ハヤブサ、トビ、カワセミ、コチドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウガラ、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、  
◎確認種（声）：ウグイス、メジロ、キビタキ、エナガ、アオゲラ



講師の説明



何を見つけましたか

### 親子自然観察隊の感想

★藤井 奏樹

沢山の野鳥が、観察出来て良かったです。

★藤井 博美

朝から、すこぶるよい天気、ビオトープに入る前に、涼しい風を感じて、心地よい雰囲気でした。きらら浜自然観察公園から来てくださった、先生方のお話が解りやすく、素敵な場面に誘って下さりました。

空高く、何度も舞って見せてくれていたミサゴは、何かをアプローチしてくれていたようでしたし、小さなほころの上にじっと止まってこちらを見ていた、ハシボソガラスにもまいました。川で、およいでいたカルガモや、珍しいイワツバメ、私たちは繋がっているな、と思いました。それにしても、柄が、それぞれきれいなんですね〜。」

★宮本 環

珍しい鳥が見られてとても楽しかったです。家の周りでは、あまり見られない鳥が見れたので、いい勉強になりました♪

鳥の鳴き声を聞いて名前がわかるようになったらいいなあと思いました。♪

## 6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

### (17) シロスジカミキリ *Batocera lineolate* Chevrolat

#### コウチュウ目 カミキリムシ科

本州から奄美大島までに分布し、体長40～55mmの大型の甲虫です。6月～8月に出現しクリ、クヌギ、シイ、ヤナギなどの生きた樹に産卵します。幼虫は樹の幹に入り樹をかじって餌とし大きく育ちます。樹の中で蛹となりやがて5～6月ごろ成虫になり外に出て来ます。成虫の脱出口は大人の親指ほどの大きさがありますので、一度産卵された樹は樹勢が弱りやがて枯れてしまいます。昆虫採集ではうれしい甲虫ですが、クリ園などにとっては大害虫です。

しかし、シロスジカミキリにとっても天敵がおり、そんなに多く増えません。ウマノオバチによって常に狙われ無事成虫になる数は多くないようです。また、脱出寸前に「サシガメ」に刺され命を落としたと思われる個体も確認しています。

近年ではやはり個体数が減少し手入れの悪いクリ園などに行かないとなかなか見ることがむづかしくなっています。農家にとっては喜ばしいことですが、「虫屋」にとってはさみしい限りです。



シロスジカミキリ♀と脱出口



シロスジカミキリ♂



↑ シロスジカミキリ  
サシガメに吸汁されるシロスジカミキリ →



## 7. 会よりの連絡事項

- 1、田植えの準備、しいては稲作全体の、更に言えばすべてのビオトープの活動において Preparation（前準備）は必ず必要で大切な活動で有ります。  
平成29年度の活動計画においては28回の参加を呼び掛けていますが前準備にそれ以上に隠れた活動が、あって本番の28回の活動が遂行できています。  
特に6月11日もさることなれど、追加活動の6月17日はそれ以上の準備が必要で、すでに役員会2回や水車の回転準備、テレビ収録のための盛土の除去準備、更には中電ボランテアによるシガラ竹準備などを合わすと数回以上になります。  
会員皆様！ご理解の上多数の参加をお願いいたします。

## 8. 編集後記

先日久しぶりにビオトープの維持管理活動に参加しました。田植え準備のため、田んぼ一面に肥料を一輪車で運びます。でこぼこの田んぼの中、一輪車を押すのは相当つらいです。ひええ～！ちっとも肥料の山が小さくなりません。こりゃ、痩せて筋肉もつくしダイエットにいいかも…と思いつつ自分を励ましましたが、大変です。「山、なくなりませんねえ。」「ははっ、そうですねえ。」「この肥料、馬糞らしいですよ。」「えっ？そうなんですか？でも全然臭くないですね。」などと皆さんで会話しながら、気力を保ちます。と、そこへ山大生の女の子登場。なんと、湯田から自転車で2時間かけて来られたそう。そのまま元気に田んぼの肥料運びに参加されます。すごい！すごいな若いつて！一気にまた場に活気がわき、ほっと気持ちが救われました。いろいろな世代の人がいるっていいですね。自分の今の年齢も実感しましたが(笑) 田植えは子どもとよく楽しく参加させて頂いていましたが、下準備などこれまできちんと参加してたっけ…？あらためて準備をしてくださっている皆さんに感謝の一日でした。

( 大野 靖子 記 )